



いづみ

No.43

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 13



《意心帰》

安田 侃

(2 ページに「作者の言葉」)

よく、「意心帰はどこが正面ですか」と聞かれるが、「正解はない」と答えています。知事公館の建物を背景にして眺めたあと、ぜひ反対側にも立って見てください。大き過ぎず、小さ過ぎないボリュームで、ふさわしい場所にある「意心帰」を見つけるはず。「意（かたち）は心を求め、心は形に帰る」一意心帰の見方は人それぞれ。あなたの心の形を見つめてみてください。（安田侃）

タイトル：「意心帰」
設置場所：北海道知事公館
（札幌市中央区北1西16）
設置年：2002年
素材：白大理石
サイズ：130×295×210 cm

近ごろの美術館

業務係 大場 裕子

世の中では「カワイイ」をキーワードに一つの文化現象を見出しているようです。今年に入り、女子中学生が作品を鑑賞しながら、何やら「カワイイ」と言っているのを耳にしました。「カワイイ」を当館で聞くとは思っていませんでした。

それは具象を極めた本郷新のブロンズの秀作とは異なり、木をデッサンするように丁寧に刻み込まれた「少女」という木彫でした。とても趣があり、そのタッチは彫刻家としての力量を思わせる作品に仕上がっています。また、清楚な顔立ちと髪型は昭和の雰囲気醸し出し、ちょっと濃いめの木肌の色味がレトロでかえって若い彼女を引き付けたのかも知れません。私と美術館との長い付き合いの中で、本郷新の作品が「カワイイ」と表現されたことは、新鮮な驚きとともに、あらためて作品に向き合う出来事となりました。

実際のところ、限られた収蔵作品・空間を生かし、いかにして見ごたえのある展示を提供できるか、感動をお届けするのが美術館の使命とっております。

若い学芸員の感性と季節がらの雰囲気も手伝って、館内はとても良い展示風景となり、近ごろはこうして若い人が鑑賞される機会や、若手作家、カップルが館内で十分時間を費やし、記念館へも足を運ばれることが多くなりました。本館1階ロビーのテーブルの上には美術館の資料や他館、ギャラリー、作家の方々より依頼を受けた展覧会の案内チラシやハガキがたくさん並ぶようになり、これを楽しみに持ち帰られる方も多く、大好評です。当館では平成25年度も様々な企画を予定しております。「少女」と共々ご来館をお待ち申し上げます。



ジャンプの沙羅と芸術と……

歳 隆司＝元(財)神奈川芸術財団専務理事・現札幌在住

ジャンプの高梨紗羅（上川町、16歳）がW杯を史上最年少で制覇。冬のスポーツ王国北海道ではあるが、これまでの数々の名選手も果たせなかった快挙を、あどけなさの残る可愛らしい少女がこともなげに達成、表彰台の頂点に立った。全国紙でも1面に取り上げたこのニュースの解説に目を移すと、芸術文化に関心を持つ私たちにも興味深い記述がある。要約すればスポーツの世界も、いかに日常の下支え、環境が必要であり、裾野の広がりがこうした選手を輩出するという点、日頃から芸術家の支援環境を考える小生にとっては、まさに我が意を得たり、爽快な読後感だった。

商業主義とは一線を画す芸術と競技スポーツの両者には構造的に類似点が多いというのが私の認識である。最大の類似点は、いずれも聴衆の入場料収入では演奏家、選手の生活が成り立たないということである。プロの演奏家、一流のスポーツ選手に育つための“投資額”は、半端ではない。一説には数千万円が必要とも言われる。ご両親や周囲の応援でその条件をクリアしたとしても、演奏家、一流選手になってさえ、生活の保障は難しい。

不況の続く日本とはいえ、GDP世界第3位を維持する国が国民の精神的財産と呼んでいい芸術やスポーツの世界に生きようとする才能をこれほど厳しい環境に追いやっている国は少なくとも先進国にはない。アジアの盟主といわれる日本が、である。詳しい説明には紙数が足りないが、結論的に言えば、このことはわが日本の芸術やスポーツに対する環境の貧しさを物語っているのである。

もちろんこの機関誌を支えるみなさんのように涙ぐましいボランティアの活躍はようやく日

本にも根付いてきた。これらの分野のNPOの存在も頼もしい。しかしそうした善意の活動のほかに私たちが芸術やスポーツを支え、同時にもっと豊かに享受することに目を向けて欲しいと私は思い続けている。

国家の、そして身近な自治体の公的な資金がもっと注入されなくては、国際的に恥ずかしく、とても尊敬される国にはなりえない。先進欧米はもちろん、いまや韓国や中国に比しても我が国の文化への公的資金は貧しいのです。いや、30年ほど前には日本も高度経済成長を達成し、それまでのものの豊かさに傾斜した反省から、もっと“心の豊かさ”に公共団体の支援を増やしていこうという時代がありました。心ある自治体の先導で文化予算が増大し、文化庁などが追随したのです。それがバブル崩壊と軌を一にして元の木阿弥と言っては少々気の毒ですが、財政難を錦の御旗に削減の一途をたどっています。いかに不況下とはいえ、類似国に比べ完全に予算配分を間違っていると指摘せざるを得ません。

これでは、日本という国がかつて浮世絵で西洋を圧倒したような国際的評価は再現できるべくもありません。日本のような資源小国でグローバルな評価がなければ底力のある国家の再建もないでしょう。芸術やスポーツでの国際的評価の力を過小評価してはなりません。欧米では20～30万人の規模でも国際的な芸術祭典で観光客を集める町も珍しくはないのですから。

もうひとつ、いまの芸術やスポーツの環境では、才能があっても経済的な事情でその道へ進めない子どもたちを救えない。そんな日本であるならば、なんと悲しいGDP第3位の経済大国ではないでしょうか。

野外彫刻地図の制作と展望

友の会彫刻地図作成グループ

150年におよぶ北海道の歴史の中で数多くの野外彫刻が設置されてきたが、これらの彫刻に関するまとまった資料はほとんどなく、その全容については手がかりさえつかめない状態であった。しかし、当友の会の仲野三郎会員が長年、道内の各市町村をくまなく調査し、これまで道内の野外彫刻の98%にあたる、2300点余の作品の写真、設置場所、関連資料を収集した。

これらのコレクションを2004年以降、会員の手で順次データベース化し、道内野外彫刻の基礎台帳(彫刻の戸籍)としての利用が可能になってきている。すでにこれらの資料を基に2004年、北大大学院工学研究科の大内東教授(現北海商科大学教授)によってWeb検索システムの開発に利用され、同教授が主宰する観光情報学会の第1回シンポジウム「アートツーリズム」で発表された。さらに、翌05年の友の会主催シンポジウム「野外彫刻とアートツーリズム」でも野外彫刻情報の収集とインター

ネットによる公開の意義が論議され、注目された。07年には測量関係の専門家の好意で航空写真による札幌市の彫刻地図が試作され、彫刻の位置、形状、解説記事などを検索できる地図コンテンツとしてお目見えした。これらデータベース化された野外彫刻作品を「屋根のない美術館」の収蔵品とみなし、この地図コンテンツを「札幌デジタル彫刻美術館」と名付けた。

美術館収蔵庫としての機能を持つデータベースには制作者、制作年、制作経緯、解説文や文献など多岐にわたる基本資料が入力される。しかし、航空写真による彫刻地図製作は高度な技術と経験が必要であり、インターネットでの公開には費用のほかIT上の問題解決が必要であるが、2010年には国土地理院の「電子国土ポータル」が無償公開され、パソコン上で誰でもアクセスするだけで簡単に使用できることになった。友の会でもこの電子ポータルを活用して簡便な地図コンテンツを作り、草の根

市民による彫刻芸術関連情報の紹介に着手した。彫刻作品の作者名、制作年などのデータベース、文字データ、写真、動画などを収めた「収蔵庫」、さらに、そのデータを見るホームページは「展示会場」というわけである。

デジタル彫刻美術館の試みは国道12号線沿いの空知管内24市町村を中心に前記、大内教授が提唱している「R-12 Backbone Project」(国道12号線背骨会議)でも取り上げられ、現在は赤平市を対象に地元ボランティアの協力で「赤平彫刻地図コンテンツ」が試作されている。

電子国土ポータル地図は誰でも自由にインターネット上でパソコンを使って入力できるため、地元の草の根市民の協力があれば容易に市町村ごとの地図コンテンツを制作でき、それぞれの「デジタル彫刻美術館」の創設が可能となる。これに地元固有の文化財、遺跡や地理的特徴などの解説を加えて、より付加価値の高い地図コンテンツに広げることができる。

将来は彫刻地図コンテンツとロードマップを

大通公園の野外彫刻群



組み合わせ、北海道全域の野外彫刻、彫刻家、ギャラリー、美術館などの地域情報をネットで結ぶことによって彫刻ナビゲーションシステムの構築が可能となる。さらに、彫刻設置場所から携帯電話で直接情報を検索するシステムの導入も待たれるところである。

友の会としては野外彫刻の観光資源化や地域文化の振興に役立つ地域別彫刻地図コンテンツの制作に努めるとともに、全道の野外彫刻のカタログ編さんと戸籍の総合管理に着手する予定である。

2月27日、北大学術交流会館で行われたNORTHインターネットシンポジウムで丹羽貴彦会員が発表した彫刻地図グループのレジユメから再構成した。グループは下記のメンバーが中心。丹羽貴彦、松原恵子、梅津紘子、横山範雄、橋本信夫(敬称略)

華やかに 2013 年友の会新年会

橋本会長アフリカ体験記 ユニーク彫刻クイズ 初のオークション
魅惑のギター演奏 盛り上がった「青い山脈」で会場を魅了！

札幌彫刻美術館友の会の 2013 年新年会は 1 月 26 日、札幌市中央区のホテル「ポールスター札幌」で開かれ、盛りだくさんのプログラムに参加した約 50 人が時間のたつのを忘れて楽しんだ。

橋本信夫会長が「友の会の活動が理解されるようになり、昨年は彫刻展に 500 人を超える人を呼ぶことができた。今年も市民文化は市民の手での精神を貫いて行きたい」とあいさつ、ついで彫刻家の國松明日香さんの乾杯で新年会の幕を開けた。

恒例の講演では橋本会長がウイルス研究のため赴いたアフリカのリベリア、コンゴなどで体験した家族同伴での生活ぶりや地元住民との交流を写真などを使いながら紹介するとともに各部族の仮面彫刻の特徴など文化人類学の見地からの解説も交えて熱弁、出席者をうならせた。

会食を挟んでアトラクションに移り、斉藤ミサヲ会員が考え出した、大通公園などでおなじみの彫刻に素朴な疑問を投げかけて名答、珍答を引き出す「彫刻さん、それな～に？ どうして？」で会場から笑いを誘い、新年会を盛り上げた。さらに、会では初めてのオークションが行われ、猪股岩生、久本由美子両会員の息の合ったセリで持ち寄った品物が次々に競り落とされた。

ついで室蘭工大生のギタリスト・佐々木巖さんのギター演奏が行われ、「アルハンブラの思い出」などの名曲が次々に奏でられ、その見事な弾きぶりで聴衆を酔わせた。最後は女性グループがステージに上がり、佐々木さんの伴奏で青春歌謡「青い山脈」を参加者全員と熱唱、大内和副会長の閉会の辞で会を閉じた。



札幌彫刻美術館友の会 2013 年度総会

5 月 11 日 午後 1 開会 札幌市民ホール

厳冬の夜を彩る

「ゆきあかりin中島公園 2013」

資生館小児童の協力を得て

厳冬の夜を彩る「第7回ゆきあかりin中島公園」が2月8日から3日間、札幌・中島公園で開かれ、3回目の参加となる友の会は紙コップランタンを雪の中に飾る「あかりと願いのターミナル」コーナーを担当した。



今年は事前に近くの札幌市資生館小学校に協力を呼びかけ、6年生108人がそれぞれ将来の夢などを描いた紙コップランタンを作り、これを雪の壁にあけた「ホコラ」に並べて火をともし、「資生館コーナー」と名付けた。

京都から来たという女性は「これで俳句を読みます」と喜んでランタンに火をともしなど、若いカップルや観光客、親子連れが思い思いのランタンを作って雪の壁に差し込み、ほのかな明かりで冬の夜の公園を幻想的に盛り上げた。3日間で約400個用意した紙コップをすべて使い切るほどの人気だった。(久本由美子)

第3回彫刻基礎学習会開催

「石の文化」テーマに学ぶ

講師は常田益代会員

昨年11月から始まった彫刻基礎学習会の第3回学習会が2月19日、札幌・エルプラザで開かれ、



講師に北大名誉教授の常田益代友の会会員を招き、「石に宿る力」をテーマに勉強した。

「宇宙との対話」でもある石と人類のかかわりを紀元前数千年のストーンヘンジからヨーロッパ、エジプト、アジア各地域の石の文化の歴史をわかりやすく解説、出席者とのやり取りも含め、古代の人物彫刻の静から動への早い進歩、大理石彫刻にも着色があったなど、興味深い話に参加者も引き込まれる講義だった。次回の学習会も常田講師を予定している。

(奥井登代)

丹羽貴彦会員が彫刻地図の発表

NORTH シンポで

北海道地域ネットワーク協議会(NORTH)主催の2013シンポジウムが2月27日、北大学術交流会館で開かれ、丹羽貴彦会員が「彫

刻地図コンテンツの制作と活用」の題で、友の会が手掛け



ている彫刻地図作りの現状と将来について発表した。シンポジウムではIT関連の活動をしている団体、学術グループなどから活動状況の報告があり、友の会の日ごろの取り組みをPRするチャンスとなった。(発表内容の詳細は4~5ページを参照)

友の会版視聴覚教材第9集

「古いコンクリート彫刻を守ろう」

札幌市視聴覚センター「ちえりあ」の委託を受けて制作していた視聴覚教材DVDの第9作「古いコンクリート彫刻を守ろう」が完成した。

今回は中島公園などにある山内壮夫の作品をメインに、これまで撮りためた映像などを交えてコン



クリート彫刻の現状と問題点を解説し、作品の補修、保全の方法を紹介した。また、これまでは「セメント彫刻」と表現していたが、作品の材質を重視して「コンクリート彫刻」という表現に統一した。シナリオ作りから撮影、編集まで橋本信夫会長が担当した。再生時間は約15分。

事務局日誌

▼1月10日＝定例役員会(エルプラザ)ゆきあかりin中島公園参加、彫刻学習会、NORTHシンポジウム参加、新年会準備、会報43号編集など協議▼26日＝2013年友の会新年会(ポールスター札幌)約50人が参加。橋本会長のアプリカ生活体験記などの講演のあと、初のオークションなど盛りだくさんの余興▼2月9-11日＝ゆきあかりin中島公園で紙コップによるランタン飾りなどを行う。資生館小学校の協力などでにぎわう▼14日＝定例役員会(エルプラザ)

編集後記

▼毎年4月号を編集する時、年度替わりだから会報のスタイルやレイアウトを変えてみようかと思ったりするが、結局、知恵が浮かばず、前回並みとなってしまふ。印刷所で印刷してもらえるようになってもう13号目になった。そろそろマンネリ化が心配だ。編集にも新しい血が必要で、どなたか「献血」してくれる方はいないだろうか。▼表紙の作家に安田侃さんを取り上げることができた。快諾いただいた作家本人、仲介役の美唄アルテピアッツァのスタッフの方に感謝したい。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.43

2013年4月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-602

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」43号 目次

| | | |
|---|----------|-----|
| 自作自選 13《意心帰》 | 安田 侃 | 表紙 |
| 作者の言葉 | | 2 |
| 宮の森の四季 13「近ごろの美術館」 | 大場裕子 | 2 |
| 風見鶏「ジャンプの沙羅と芸術と…」 | 蔵 隆司 | 3 |
| NORTH 発表原稿「野外彫刻地図の制作と展望」 | 彫刻地図グループ | 4-5 |
| 友の会ニュース | | 6-7 |
| 2013年友の会新年会、ゆきあかり in 中島公園、「石の文化」テーマに彫刻学習会、丹羽会員が NORTH シンポ発表、視聴覚教材 DVD | | |
| 事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか | | 8 |

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■コレクション展『「かお」を読む』4月20日[土]—6月9日[日]まで

写実的な肖像彫刻からユーモラスなテラコッタの頭像まで本郷新が表現した人間の「顔」を紹介

■展示替えのため6月10日～14日まで休館

■「柿崎 均」展 6月15日[土]～8月25日[日]まで

新たな表現に意欲的に取り組む中堅作家の個展。ガラスを用いた詩的な造形で知られる柿崎均による発光するウランガラスのインスタレーション

記念館

■ 小企画展①

「本郷新の絵画」 4月16日[火]～9月8日[日]まで

風景画や身近な人物の肖像画など、本郷新が彫刻制作の傍ら手掛けていた絵画作品を紹介

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>